

## VII 西大寺の発掘調査(第95－9次)

庫裡増築の現状変更にともない西大寺の依頼によって行なった調査である。

調査地は、現境内北門西脇で伽藍中軸線上にあり、中大門跡推定地である。発掘面積は、 $33\text{ m}^2$ と小規模であったため、中大門は発見できなかったが、4条の東西溝を検出した。うち平行に走る2条の溝(北幅 $0.5\text{ m}$ 、南幅 $1.2\text{ m}$ )は東西方向の道路の側溝である。北側溝の一部は木樋を用い、その先端はコの字形に石組した暗渠となっている。道路幅は溝心々で $5.8\text{ m}$ あり、西大寺創建以前の平城

京条坊の坪を画する幅2丈の小路と考えられる。なお創建後も金堂院と塔院を区画する寺内道路として利用したとみられる。

この道路は、平城宮西面北門に通じる一条南大路と一条北大路の条間路にあたり、従来大路規模（8丈）に推定していた。しかし今回の調査で幅員が2丈であることを確認し、さらに、検出した道路心と推定西面北門心がほぼ一致することから、この条間路は小路であったと考えられる。